



## ふるさとの面影残る 区立秋の陽（あきのひ）公園の水田で 区内の小学生約 380 名が田植えを体験！

と き 5月28日（火） 午前9時30分～午後2時30分

と ころ 区立秋の陽（あきのひ）公園（光が丘2-5-2）

28日、区立秋の陽公園の水田（約500㎡）で、近隣の区立小学校5校の5年生児童約380名が、田植えを体験した。

都会では比較的珍しい田植え体験を楽しみながら、農業の大切さを知ってもらうために行っている。開園（昭和63年）以来、毎年実施しており、今年で32回目を迎えた。

児童は、区職員から田植えの方法や、稲の成長過程について説明を受けた後、裸足で水田に入り、田植えを行った。

水田を管理する東部公園出張所の担当者は、「最初は素足で泥の中に入ること戸惑う様子もあったが、次第に慣れ、楽しみながら田植えに取り組んでいた。収穫まで一緒に頑張りたい。」と話した。



▲笑顔で田植えを楽しむ児童

### 【当日の様子】

見事に晴れ渡った青空の下、元気いっぱいの児童たちが水田の前に集合した。

まず、区職員が水田に入り、苗の持ち方から植え方まで田植えの手順を説明。その後、児童が水田に入って一列に並び、一人10株の苗を慣れない手つきで植え付けた。田植え体験を終えた児童は、「初めての経験で楽しかった。また田植え体験をやりたい。」「自分が植えたお米からお餅を作って食べるのが楽しみ。」などと話していました。



▲真剣に説明を聞く児童たち

### 【今後の予定】

今後は、東部公園出張所が水田を管理する。苗は順調に生育すると9月下旬から10月初旬に稲刈りの時期を迎え、約100キロのもち米として収穫する予定。収穫後は、学校で餅つき大会や給食の材料等に使用する。

### 【参考1】区立秋の陽公園について（約18,200㎡）

昭和初期の豊かな水田の広がる生活風景をイメージして作られ、「田んぼのある公園」として親しまれている。あぜ道で6面に分けている約500㎡の水田や、農家の長屋門を模した正面入口などが特徴。苗の種類は「マングヅモチ」という種類のもち米。



▲苗を植えていく様子

### 【参考2】参加した学校について

光が丘春の風小109名、光が丘夏の雲小68名、光が丘秋の陽小84名、光が丘四季の香小83名、光が丘第八小40名の計5校、384名の児童が田植えを体験した。